

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、地域の文化や伝統を尊重し、「生きる力」の理念を重視して、生涯を通して知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で人間性豊かな児童の育成を目指す。学んだことを必要なときに使える児童の育成を図る。 【○ゆたかな子 ○かんがえる子 ○つよい子】

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○子供も教師も明るく生き生きと輝いている学校 ○子供・教師・保護者・地域の願いや想いを大切にする学校 ○保護者・地域から「おらが学校」として信頼され共に子供を育成する学校
○児童・生徒像	○新しいことに挑戦し、失敗から学び、やりきることのできる子供 ○明るくいいきと自己表現する子供 ○思いやりの心もち、目を輝かせて学び、遊び、働く子供 ○人や自然と積極的に関わり、共に生きる子供
○教師像	○子供と共に汗し、喜びや悲しみを分かち合う教師 ○子供のよさや失敗を認め、励まし、子供の学びにつなげることのできる教師 ○温かな学習集団を創り日々の授業の充実を目指して、挑戦する教師 ○学校運営やP T A、地域行事に進んで取り組む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

成果

- ・夏休み前までに、朝のルーティーン・学習ルーティーンづくりをした。また、「自分で」や「自分から」を合い言葉に、学んだことは使うことや、主体的に学習に向かう力、やればできるという成長マインドが育ってきた。
- ・MIM の指導、国語・算数を中心とした問題解決型の足立スタンダードを基本にした授業、ノート指導、3分間視写、中1合宿問題のテスト（A Iドリル）の活用等、日常の成果が、年度当初に行った学力テストで82.9%（国語82.9% 算数82.9%）に現れ、基礎的な力が身につくにつつあった。
- ・ICT 機器やタブレットを活用した授業改善・工夫ができた。
- ・文字列を書く速度が付き、自力解決のための時間を確保でき、授業の質が向上した。

課題

- ・「学んだことは、必要なときに使える力として身につける」ことが課題の一つである。特に、自ら文章を読み理解し解決していくための知識や技能、最後まであきらめずに取り組もうとする点に弱みが見られた。
- ・単元のねらいと身につけさせたい力に応じ、足立スタンダードを基本にした授業の推進とタブレット等のICT機器の有効な活用をどのようにするか。
- ・国語を中心に、題意を理解し、読み解き、表現する力の向上させる手立てをどのようにするか。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	◎	○	○
2	個の尊重とあたたかな人間関係の育成	○	◎	○	○	○
3	体力の向上と健康・安全	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
足立区学力調査の目標とする通過率を向上させる。		4月実施：国語・算数 80%以上 2月実施(確認)：国語 75%以上 算数 80%以上		4月実施国語 86.5% 算数 85.7% 未確認テスト：1/22 現在未実施		国語・算数ともに 85%を上回った。さらに読み解く力の向上が課題である。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	主体的・対話的な学習のできる学習集団づくり	全学年 道徳科 特別活動	通年	・Hyper-QU (Web) の活用 学びの中心となる学級のあたたかな学習集団づくり ・学年で分析・工夫改善	年2回 Hyper-QU の実施 満足群の増加等	満足群半数以上	Hyper-QU (Web) 2回実施。2回ともに、親和的な学級が 75%であった。満足群半数以上達成した。	実施後学級の状況を分析、事後の指導に生かした。	◎
2 継続	ゴールを意識した授業改善による学力向上	全学年 国語科・算数科	通年	・足立スタンダードによる問題解決型授業の推進(用語の活用・振り返りの重視) ・プログラミング的思考の推進・読解力の向上	区学力調査問題 単元テスト ポートフォリオ	国語 75%以上 算数 80%以上	2月初めに、時学年問題を実施、SP表分析、および次年度に向けて定着を図る。	課題克服のため、個別指導、苦手とするポイントを絞って部分指導を実施した。	◎
3 新規	ICT機器・タブレット等の活用	全学年 全教科	通年	・AIドリル、デジタル教科書等、適所でICT機器の活用 ・計算の習熟・廻り確認 ・漢字の読みや意味調べ ・調べ学習	週案 AIアクセス数等	タブレット・AIドリル等ICT機器の活用数2回/日以上	ICT機器の活用ができた。 AIドリル強化月間には平均500問以上の活用	特に、6学年が活用をリードした。調べ学習、まとめ、発表する力の育成ができた。	○
4 新規	読み取り力の向上	全学年 国語科	通年	・読み取りドリルの活用 ・言葉で思考力を鍛える問題の活用	9月より月1回実施 ポートフォリオ	国語 75%以上 算数 80%以上	読み取り力向上のための校内ミニ研修を実施。児童が自分で読む力の向上	児童が自分で読み、言葉に着目するようになってきている。	○
5 継続	習熟度別指導授業・補充	全学年 算数科	授業時間 放課後	1年：週4時間 2年以上週5時間の習熟度別指導 週2回以上放課後補充教室	単元テストおよびベーシックドリル	80%以上の児童が単元テストで80点以上	80点以上の児童、12月段階で7割であった。	高学年になり説明する力が伸びてきている傾向があった。	△
6 継続	読みの基礎の定着	1学年 国語	通年	MIMの活用 特殊音節の読みに焦点	MIMアセスメント	3rdステージ 0	1月時点で3rd 0人	教科書が読める児童の定着・育成に課題	○

7 継続	朝学習 (ハワーアップ タイム)	全学年 国語 算数	週3回程 度 10分間	3分間視写 ます計算 音読 読書等	視写ファイル 等	視写速度等の向 上	筆記する速度の向 上 他教科へよい影響	短時間で書いて説明 する力の向上	○
---------	------------------------	-----------------	-------------------	----------------------	-------------	--------------	---------------------------	---------------------	---

重点的な取組事項－2		個の尊重とあたたかな人間関係の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分の心との対話の育成 道徳教育の充実		児童アンケート調査 (7月 12月の計2回実施) ・「挨拶」「正しい言葉遣い」「良好な 友達関係」4段階のB以上90%以上	低学年・高学年ともに「挨拶」「正 しい言葉遣い」「良好な友達関係」 で95%以上が肯定的回答	挨拶、友人関係におい ては、高学年が98%、 97%とよい傾向であっ た。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
道徳科の授業の充実	・道徳教育の要として道 徳の授業の改善・充実	・ポートフォリオの活用（全 学年）ICT機器の活用 ・「思いやり」「生命尊重」の 項目の重点的な扱い	・毎時間道徳の授業の振り返りを ファイルし、心の教育を進めた。 ・高学年においては意見交流にタブ レットの機能を活用した。	道徳の授業の学びを生 かし、あたたかな校風 になってきている。	○
「言葉は心」 挨拶・あたたかな言 葉遣いと返事の励行	・児童アンケート調査 「挨拶」「正しい言葉遣 い」B以上90%以上	・生活指導目標・言葉の月目 標について具体的指導の実施 ・あたたかな言葉遣い、文で 話す指導（～です。～ます。 を基本）	・「正しい言葉遣い」学校全体で 96% ・月の生活指導目標とともに、言 葉の生活目標も掲げ、丁寧な言葉 遣い、相手に伝わる話し方を推進 してきている。	・気持ちのコントロール できる児童の育成が 課題である。 ・校外での言葉遣いに 課題があった。	○
自尊感情・規範意識 思いやりの心の育成	・児童のアンケート調 査「良好な友達関係」B 以上90%以上	・アンケート・SSTの活用 ・フェルマータ・タイムの活用 自分の行動や心の振り返り の対話の時間を設ける。 ・特別支援教育個別の手法の 共有 校内委員会（月1回）	・フェルマータ・タイムの活用 自分の行動や心の振り返りの対 話の時間を設け、自分の行動や言 葉遣いを振り返ることができた。 ・校内委員会を活用し、支援が必 要な児童の実態や対応について共 通理解を促し、有効な事柄を実践 的に実施した。	・児童自らが認められ る存在であると認識す るようになり、教員の 指導が入りやすくなっ てきている。 ・自尊感情が育成でき、 落ち着いた環境になっ てきた。	○

重点的な取組事項－3		体力の向上と健康・安全			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心身ともに健康な児童の育成 運動に取り込む意欲や感情をコントロールし最後までやり遂げる態度の育成 児童の安全意識の向上		・生活調査アンケート「早寝」80%「早起き」90%「朝ご飯」98%	・早寝、早起きについては、高学年に課題がある結果となった。	朝食については、よい結果であったが、質的な部分で課題がある。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
新型コロナウイルス感染症防止の中の新しい生活様式に対応した生活習慣の確率	・登校、朝の時間のルーティンづくり 感染症等防止のための検温手洗い、マスクの着用等の実践 「早寝」80%以上「早起き」90%以上「朝ご飯」98%以上	・挨拶、靴揃え、廊下歩行の指導、児童の実践を促す。 ・授業規律、名札の着用、手洗い・うがい等の指導を通し学習に向かうルーティンをつくる。 ・フェルマータ・タイムの活用 学習に向けた午後の落ち着いた生活習慣づくり	・4月より各学級等の実態を把握し、学習・生活のルーティンづくりをした。 ・学校全体でフェルマータ・タイムを活用し落ち着いた学校生活、午後の授業も集中できる学習環境・生活環境を整えた。	・継続した指導により、挨拶や靴そろえは指示がなくてもできるようになっている。	○
体力の向上	・with コロナ等を考慮した体育科の実践、外遊びの励行 ・姿勢・体幹・学習体力を意識した取組	・多様な動きをつくる運動を年間計画に組み込む。 体力調査結果の活用(投力等の向上) ・姿勢の保持	・元プロスポーツ選手を講師に招いた授業の実施。運送に興味を持たせた。 ・委員会活動を活用し、持久走や短縄・長縄を使った運動の推進	・業間には、教員も校庭に出て、児童を看護するとともに運動に親しませていることにより、体力が都の平均に近くまで上がった。	△
健康教育と食育の推進	・食育の授業「もりもりウィーク」の実施	・保健指導、保健だより等を活用し、家庭との連携・自己評価による早寝・早起き・朝ご飯の習慣化 ・「食育授業(年2回)」「給食だより(月1)」「郷土食」「もりもり給食ウィーク(年3回)」等食育の推進	・養護教諭によるプライベートゾーン等命に関わる教育の授業(4年)の実施 ・栄養士によるランチルーム級食事の食育指導や低学年の体験授業の実施等等	・学級担任だけでなく専門性を生かした授業、外部指導員を活用した取り組みを実施し、健康や命の安全に関する意識を向上させた。	◎

安全・防災教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の状況に対応し、想定範囲を拡張した避難訓練の実施 ・安全指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸機関との連携、地震、水害、不審者対応訓練等の実施 ・水害時マイタイムラインの活用 ・アレルギー対応訓練 ・危険予測、危険回避能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署と連携した避難訓練を2回実施。また、警察署と連携の不審者対法訓練も実施した。 ・年度当初にアレルギー対応訓練を実施し、事故防止に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸訓練を通じ、教職員の危機管理意識が向上した。 ・児童の災害に応じた避難の仕方が身についた。 	○
------------	---	--	---	--	---

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

【成果】

- ・4月実施の区学力調査では、通過率、国語 86.5% 算数 85.7%で昨年度よりおよそ3ポイント上回った。板書の工夫やノート指導とともに適所にタブレット等ICT機器を使った授業の工夫や改善の成果と考えられる。
- ・説明する力が付いている。低学年で学習した順序を表す言葉や理由を表す言葉を使って説明できるようになってきている。
- ・問題解決型のスタンダードによる授業展開により、どの児童も事前に学習の仕方がわかり、学習内容に注目できるようになってきている。
- ・12月中に中一合宿問題を4年生以上で実施した。4年生までの計算問題は8割以上の児童ができるようになった。

【課題】

- ・学校全体での朝の生活習慣、学習に向かうルーティーンの定着を新学年のスタート時からできること
- ・国語を理解し活用すること。算数では問いを図や数直線、式に表すことができること
- ・各教科で学んだことを他の分野でも活用できること 主体的に学ぶこと

【対策】

- ・かな文字の読み書きができること (MIMアセスメントの活用) 音読指導等の継続指導
- ・文字記号を言葉のまとまりとして捉え書くことに慣れること (3分間視写の活用)
- ・算数の習熟度別学習、放課後補充指導、AIDドリル等の活用 (習熟度やつまずきに応じた指導の工夫)
- ・月1回家庭学習奨励週間の設置と自主学習の奨励

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- ・学んだことは必要なときに使えることをめざしています。児童のノートを見ると、授業終末のまとめ方や振り返りの内容がレベルアップしてきています。コロナ禍の制限が緩和され、日常の教育活動に幅が出てきました。校内外での体験的な活動や専門の講師を招いての本物に触れる活動もできるようになりました。また、タブレットの家庭での活用や必要に応じての持ち帰りに協力、ありがとうございます。学校生活上のよいルーティーンを身に付け、どの学年も学びに向かう姿勢が育ってきています。教職員一丸となって、さらに伸ばしていきます。

(3) その他 (学校教育活動全般について)

- ・「教師と児童との関わりを通して」「児童同士の関わりを通して」を授業の中で育み、ICT機器の活用をも含め、「成長できるというマインド」をさらに育てていきます。
- ・「言葉＝心」。あたたかな言葉の中で育てていきます。
- ・「学び＝まねび」や「新しいことに挑戦し、失敗からも学ぶ」ことを「学んだことは使う」の中で育んでいきます。そして、自分の中で何が大事なのか、何が今必要なのかを児童自らが主体的につかみ、判断できるように、児童一人一人が必要なときに使える基礎・基本となる学力を身につけさせていきます。令和6年度は80周年、飛躍の年にしていきましょう。

